



## 《将来に向けた取組方針》

私たちは、環境方針に“生物多様性保全”を掲げ、2030年までに自然の損失を止め回復軌道（ネイチャーポジティブ：自然再興）に乗せるための具体的な行動をとります。

- ・ 全社員によるあらゆる事業活動における生物多様性の保全を行います
- ・ サプライチェーンも含めた必要な教育啓蒙活動を行います
- ・ 生物多様性の保全・再生と持続可能な利用に関する技術研究開発を行います

## 《具体的取組み事例》

### ● 30by30 アライアンスへの参加

当社は2022年より30by30アライアンスに参加しています。30by30の達成に資する取り組みとして、当社の社有地における自然共生サイト（OECM）認定を目指し、現地に生息する生物種の調査や自然資本の価値評価、管理・モニタリング計画の策定などの活動を進めています。

<30by30アライアンス>



### ● 生物多様性に配慮した施工

#### 河川工事における水生生物の遡上に配慮した施工

当社は全施工現場で事業活動と生物多様性との関わりを把握し、生物多様性保全に寄与する活動を行っています。

西日本支社 岡山田益出張所では、河川内の耐震補強工事に伴う工事用道路を、盛土から、下部に橋脚を必要としないフロート式栈橋に替えることで、盛土による河川水の汚濁防止、水生生物（ニホンウナギ、モクズガニ、鮎など）の遡上・降下ルートを確認しました。

<サンゴの育成>



### ● 産学連携によるサンゴ保全活動

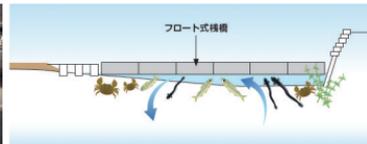
当社は2018年に国際サンゴ礁年2018オフィシャルサポーターに任命されたことを皮切りに、玉川学園と産学連携に関する協定を締結しました。

2021年より開始した「伊江島サンゴ移植プロジェクト」においては、サンゴの育成・移植用水槽を整備し、玉川学園や他の主体と連携しサンゴの移植、モニタリングを行い、海の生態系の保全活動を継続しています。

<伊江島におけるサンゴの移植>



フロート式栈橋（手前）



フロート式栈橋下部イメージ